

# 3D 関西だより

No. 2

2010.4.27

## 3D 元年本格始動

日本はカメラ王国と言われてきましたが、3Dに関しては後進国でした。過去、欧米では3回3Dがブームになったことがあります。いずれも日本は蚊帳の外でした。しかし今回の3Dブームはどうやら日本もその一翼を占めていきそうです。

昨年のFUJIの3Dデジタルカメラの発売につき、今年はパナソニック・ソニー・シャープ・東芝と、あいついで3Dテレビの発売を予告しています。3Dテレビの視聴方式は、液晶シャッターメガネが主流で、以前に予想されていた裸眼立体視方式ではありません。このほうが大勢で見るのに適しているかもしれません。プロジェクターもこの方式のものが増えています。これまでのように、ステレオ写真を写すのに、2台のプロジェクターを買わなくてもよい時代になってきました。

3D映画も、昨年「アバター」が大ヒットしたのを受けて、今年も「アリスインワンダーランド」がすでに公開され、話題を呼んでいます。

わが3D関西にも、出版物に使う3D写真の問い合わせがきています。そのうち、3Dテレビ用の動画の問い合わせもあるかもしれません。

## ISU 視差基準

今回のISU CODE 5では、視差の基準を厳密に設定するということになり、わが3D関西の出品作品もかなり修正を要求されました。

これは目の安全のための基準なのですが、ISUでは、無限遠の被写体のずれを、最大写真の横幅の1/30としています。1/30の科学的根拠はあまりはっきりしていませんが、ISUは今後もこれを基準にしていくようです。それで、今後ISU CODEに出品される作品については、視差1/30以下という条件をクリアしているかどうかを厳密に調べてください。

それともう一つ、ウインドウ破りもご法度です。写真の外周をていねいに見て、もしウインドウ破りをしている被写体があれば、極力けずってください。

以上の条件は、われわれの作品が個人的な鑑賞の域を越えて、テレビやDVD・出版物・宣伝物などの大衆的な鑑賞に供される際には否応なく課せられるものなので、これからの撮影には、この条件を今まで以上にしっかりと意識をしたうえで取り組んでもらいたいと

思います。

(例 下の写真の左端の円錐形の屋根のずれが1/30以下)



## ホームページのアクセス状況

3D 関西の公式ホームページを開設してから半年近くが経過しました。この間のアクセス状況を川越さんが発表されました。

それによりますと、アクセスカウンター（ユニークユーザー）は、4/24 現在 2368、これまでのアクセス総数は 9977 でした。時間帯別に見ると、いちばん多いのが午後10時ごろ、次いで午前10時、午後8時ごろとなっています。受信しているモニタの解像度別に見ると、いちばん多いのが1280x1024、次いで、1920x1200となっています。ブラウザは、インターネットエクスプローラーが圧倒的に多く、91.65%を占めています。OS別に見ると、Windowsが圧倒的に多く96.67%を占め、MacOSはわずかに0.59%です。国別に見ると、日本が圧倒的に多いですが、オーストラリアから12、ポーランドから6、フランスから4、アメリカから3、中国から2件のアクセスがありました。

最後に、ホームページ担当の大林さんから、3Dに関するニュースはどこよりも早いので、しょっちゅう見るようにしてください。また、掲示板もありますので、どんどん書き込みをしてください。

## 大阪くらしの今昔館で3D写真カード販売

天六の大阪くらしの今昔館で、展示物の3D写真をカードにしたものが販売されています。これは会員の森弘さんが撮影されたもので、ビューアーのついたカードが1セット300円です。3D元年にふさわしい商品ですね。

## 自分の写真をビューマスターに

以前はビューマスターの空リールに特殊な形にカットしたフィルムを差し込んで作っていましたが、最近は円盤状のフィルムに直接写真を焼き付けることができるようになりました。自分の写真でビューマスターのリールを作りたい人は、写真7組を東京の関谷さんに送れば作ってもらえるそうです。値段は100枚で10万円ぐらい、枚数が多くなれば、もう少し割安にできるそうです。

## マクロリ alist型接写用ステレオカメラ

野口さんがマクロリ alistと同型の本格的な接写用ステレオカメラを製作されました。

ボディは、コシナ製フォクトレンダー・ベッサL、裏蓋を開いてピント面に焦点板を置くとピントを確認することができます。レンズは、オリンパスペンのズイコー28mm, f3.5 2個を使用し、ステレオベースを13.5mm にしました。

